

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立伊都中央高等学校 定時制課程	学校長名：角谷晴生
-------------------------	-----------

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域が一体となり「地域とともにある学校」づくりをめざす。 「志を高く掲げ、将来にわたって豊かな人間関係を築きながら社会を生き抜く力」、「困難に直面しても、あきらめることなく自らの未来を切り拓く力」、「人々との関わりの中で、互いに鍛え合い、支え合い、学び合い社会に貢献する力」を身につけた生徒を育成する。
-------------------	---

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 定時制課程と通信制課程の連携、学校と地域との連携を深めながら、多様な課題を抱えた生徒が自立して社会に踏み出せるよう、指導・支援に努める。 教育環境の整備を進め、生徒の学習意欲の向上に努めるとともに、基礎学力の定着に努める。
--------	--

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1	学習意欲の向上と進路意識の高揚
	2	特別支援教育の充実
	3	豊かな人間性の育成

学校評価の結果と改善方法の公表の方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ等によって公表する。 学校運営協議会に提出する。
--------------------	---

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重点目標					年度評価 (1月21日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の学力の幅が大きく、小中学校段階の学習を習得できていない生徒が多い。 生徒の授業への参加や取組の姿勢については、消極的な場面も見られる。 自己理解の不足から、進路意識や目的意識が希薄である生徒、職業観や勤労観が未熟である生徒が見られる。 	学習意欲の向上と進路意識の高揚 <ul style="list-style-type: none"> 指導目標の明確化と指導内容の充実 授業への主体的参加と基礎学力の定着 自己の在り方、生き方を考える力の育成 自らの将来像を考える想像力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 授業中の携帯電話等の指導の徹底 「豊かな学び」の内容充実 ICTを活用した授業の実践 「分かる授業」の実践 研究・公開授業実施とふりかえりシートを活用 評価の理解とふりかえり 総合的な探究の時間、LHR等の年間計画の確立 面談や調査結果を活用し、生徒の特性や能力に応じたきめ細かい進路指導の実施 福祉科目の設置と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の環境整備(机上・教室内等) 基礎学力の定着 ICT活用による学習意欲の向上 生徒の授業評価の実施 研究・公開授業を実施した教員の割合 進路未決定者の減少 進路指導における個別の対応と指導 長期インターンシップの促進 介護職員初任者研修終了者数 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もコロナ対応のため教育活動全般に制約が生じたが、全教職員が連携・協力したチーム対応で、生徒の学習や生活の支援に繋がった。 「分かる授業」の実践に取り組み、こまめな研修や研究授業を行うことで、一人一人の教員が授業力向上に努め、生徒の授業へ向かう姿勢の向上につながった。 ICTを活用した学習について、教員組織を編成し、活用が進みつつある。 進路指導には粘り強く取り組み、成果を上げた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な課題を抱えた生徒の実態に合わせ、対面指導及びICT学習、個別学習、協働的な学習の組合せを工夫する。 進路希望を具体的に決められる生徒には適切な指導を行い、成果を上げることができた。一方、自らの進路を具体的に考えることが難しい生徒に対して、勤労観や社会での自立を意識させる具体的な取組を検討する。 ICTを活用した「分かる授業」を更に進めていきたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 長期欠席・不登校・ひきこもり等の経験者が多く、生活経験の乏しい生徒が多い。 中途退学・転籍・転コース等、進路変更をする生徒が見られる。 関係諸機関との連携が進み、多方面からの生徒情報が得られている。 	特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の適切なアセスメント 全教職員による統一した生徒理解と組織的な支援の実施 個別の教育支援計画(つなぎ愛シート)の作成と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 面接、三者面談、アンケート等の有効活用 教職員間の情報共有 アセスメントシートの作成 家庭や関係諸機関との連携の促進 教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 中退・転籍・長期欠席者の減少 ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善の実施 授業評価の実施 年3回の面接週間・三者懇談の実施 ケース会議の実施 SC、SSWと連携した月1回の校内支援委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育COを中心に支援委員会を開催し、SC・SSW・教職員が連携して情報を共有し、生徒支援を進めることができた。 生徒や保護者と連絡を密にし、丁寧な対応を心がけることで、信頼関係を築くことができています。 学習指導支援員事業を活用した現職教育を通して教職員の専門性が高まった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校との連携に取り組み、教職員の指導力を高める。また、多様性に対応した生徒理解や支援の研修を充実する。 個々の生徒や家庭の課題は多様化・複雑化し、学校だけでは解決できない。関係機関と連携し切れ目のない支援を行う。 つなぎ愛シートの作成と活用を推進する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係をうまく築けない、自ら意思決定ができない、自己有用感が持てない等、精神的・社会的自立が不十分な生徒がいる。 学校やクラスへの帰属意識が希薄な生徒が見られる。 放課後の時間を有効活用できる生徒が少ない。 	豊かな人間性の育成 <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒へのきめ細かい支援体制の確立 自己理解・他者理解の促進 地域の教育力の活用 	<ul style="list-style-type: none"> HR、学校行事、生徒会活動、部活動等の充実 学校外の学修の充実 放課後の時間の有効活用 クラブ活動の充実 生活デザインα/βの開講、ジョブシャドウイングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 事後アンケートの実施 ボランティア、長期インターンシップ、地域連携講座への取組 クラブ活動の活性化 授業評価の実施と振り返り 就職内定率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、LHRや学校行事の実施が難しい時期もあったが、全教職員がチームで取り組み、生徒の主体的な活動を引き出すことができた。 福祉科目や生活デザインα/βを開講し、生徒の社会的職業的自立に向けた資質能力の向上を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 福祉科目を充実させ、認知症カフェの実施を実現し、生徒の社会的自立と自己有用感の向上を促す。 地域と協働した取組を工夫し、ボランティア活動等を通して社会とのつながりを意識させる。 生徒会活動、LHR、学校行事の内容を精選し生徒の望ましい変容を促す。

学校関係者評価
令和4年 3月11日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 「地域とともにある学校」づくりに向けて、生徒の地域でのボランティアに通じた活動が定着してきている。今年度はコロナ対応のため活動が少なかったが、来年度こそ生徒を地域に出して大活躍させてやってほしい。 定時制課程の強みを活かした特色ある取組ができています。 地域と連携しながらキャリア教育を進め、将来地域産業を支える人材育成を期待している。 定時制教育の柔軟性に魅力を感じて入学し、スケートボード等に励んでいる生徒が増えてきている。そういう生徒の夢実現に向けて、学校あげて支援に取り組んでほしい。 生徒の学校評価を見て、生徒会活動や部活動の活発化を望んでいるように感じた。アンケートなどを実施して新たな生徒会行事や新しいクラブの設置等を検討してはどうか。 定時制教育は、多様な課題を抱える生徒や家庭の支援において果たす役割が大きい。地域や保護者と連携して生徒の自立を支えてもらいたい。 地域の公民館活動などに協力し、若い力で地域を盛り上げてほしい。

令和3年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立伊都中央高等学校 通信制課程 学校長名： 角谷 晴生

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域が一体となり「地域とともにある学校」づくりをめざす。 「志を高く掲げ、将来にわたって豊かな人間関係を築きながら社会を生き抜く力」、「困難に直面しても、あきらめることなく自らの未来を切り拓く力」、「人々との関わりの中で、互いに鍛え合い、支え合い、学び合い社会に貢献する力」を身につけた生徒を育成する。
-------------------	---

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 定時制課程と通信制課程の連携、学校と地域との連携を深めながら、多様な課題を抱えた生徒が自立して社会に踏み出せるよう、指導・支援に努める。 教育環境の整備を進め、生徒の学習意欲の向上に努めるとともに、基礎学力の定着に努める。 本校及び他校からの転編入生徒にとって、より学びやすい環境をつくり、卒業に進んでいけるようシステムの構築に努める。
--------	--

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 学習意欲の向上と進路意識の高揚
	2 特別支援教育の充実
	3 学習環境の向上と「学びやすさ」に向けたシステムづくり

学校評価の結果と改善方法の公表の方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ等によって公表する。 学校運営協議会に提出する。
--------------------	---

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					令 和 4 年 3 月 1 日 実 施		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	年 度 評 価 (1 月 2 1 日 現 在)		
					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	
1	<ul style="list-style-type: none"> 全体としては転編入生が多数を占めているが、新卒生も増加傾向にある。 小中学校での学習内容が定着していない生徒が多く、特に、新卒生については、不登校経験により学習活動に不安を持っている生徒が多い。 基本的生活習慣が確立されていない生徒や職業意識、勤労観が未熟な生徒も多い。 	学習意欲の向上と進路意識の高揚 <ul style="list-style-type: none"> 指導目標の明確化と指導内容の精選及び充実 授業への充実した参加と基礎学力の定着 見通しを持って自己の将来を考える力の育成 自立に向け、地元企業等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着 挨拶の励行 ルール・マナーの指導 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、基本的生活習慣、授業規律とコロナ感染防止の指導を徹底し、安全に学べる環境を整えることができた。 生徒の学習状況について、担任はじめ全員で情報共有し、単位修得の支援を行った。特に、コロナ感染症による影響については配慮し、補講等を行い対応した。 進学や就職について、生徒の要望を一人一人聴き取りサポステ、行政等と連携しながら、個別支援し、進路決定した。 	A	
			<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 学習進捗状況に応じた指導 活動歴のない生徒への年2回のアプローチ 			<ul style="list-style-type: none"> 進学や就職に向けての個別対応 個に応じた補充学習の実施
			<ul style="list-style-type: none"> 将来の進路意識の確立 組織的な補充学習や個別指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 就業を含めた生徒状況の把握と学習環境の確立、企業等との連携強化と自立への支援 			
			<ul style="list-style-type: none"> 関係機関(区市町村関係部署、With You、医療機関、企業等)と連携した支援 				
2	<ul style="list-style-type: none"> 学習理解や発達障害、家庭環境や心身の悩みを抱えた生徒等、課題のある生徒が多く学力差も大きい。 学校行事や特別活動などで生徒同士が交流する機会が少ない。 ICTの活用を含め、特別支援教育の視点に係る教職員の専門性のより一層の向上が必要である。 	特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の発達段階に応じたきめ細かな学習指導 生徒状況に応じた支援体制の充実 学校行事や特別活動への参加 生徒に応じた個別指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の居場所づくりと課題を持つ生徒への支援等の確認 校内支援委員会における生徒状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングおよび学校行事の出席状況 レポート提出状況と、その進捗状況 月1回の丁寧な生徒情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報をデータファイル化し、全員で共有し、月1回の情報共有会を持ちながら、生徒支援を充実させた。また、支援委員会を持ち専門的な支援につなげた。 学校行事については、コロナ対策を徹底し、自主活動を工夫し、生徒の交流の確保・充実を図った。 ICTの活用、授業改善、生徒支援、自立支援について、現職教育を行った。 	A	
			<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等の集団活動における生徒の交流機会やコミュニケーション機会の工夫と拡大 生徒情報共有会や現職教育等の効果的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動への出席状況 関係機関との情報共有とアセスメントに基づく効果的な生徒支援の実施 県の学習指導支援員派遣事業を利用した授業改善と特別支援教育の充実 			
3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が安心して学習に取り組める環境整備が必要である。特に、個別最適化の学びのためICTの活用が重要である。 実務代替の拡大などの単位修得、転編入学、定通併修、全通併修のシステムの整備や見直しに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びやすい学習環境が適切に保たれているか 通信教育におけるICT活用のあり方の検討 生徒が単位修得や卒業に向けて、意欲的かつ前向きに取り組める制度であるか 	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングやレポート作成への出席のしやすさ ICT活用による教育システムの検討 	<ul style="list-style-type: none"> レポート、教室施設のユニバーサルデザイン表記の統一 ICTを活用した効果的な教育活動の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領対応のレポート作成に、勉強会を持ち、取り組んだ。 ICTを調べ学習や内容の理解深化のため活用した。 生徒への声かけや面談、相談への対応を丁寧に行った。また、不活動生徒には、年2回組織的な掘り起こし対応を行い、登校を促した。 校外での生徒の取り組みの単位化を検討する。 	B	
			<ul style="list-style-type: none"> 特技を活かした学校外活動の評価について検討 	<ul style="list-style-type: none"> 単位修得の在り方を検討し、教務規定の見直し。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 生徒の不安の解消と卒業への支援 コロナ対応の徹底 中学校・高校への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との面談実施状況 卒業者数の増加 消毒作業や予防等の徹底 説明会、書類発送等の継続 			

学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインに基づいた特別支援教育の充実が図られてきている。来年度以降も継続して取り組み、個々の生徒にあったスクーリングの在り方を研究してほしい。 教職員のカウンセリングマインド育成に向けた研修を設け、生徒の相談に対して親身な対応ができるような教育相談活動のより一層の充実を望む。 本年度はコロナ禍にあつて高野山大学と連携した夏季集中講座を実施できなかったが、ふるさと学習の充実とともに生徒の単位修得に向けた柔軟なカリキュラムマネジメントの実施を望む。 生徒の学校評価アンケートを見て進路に不安を持っている生徒が多いことから、長期インターンシップやジョブシャドウイング等の手法を用いてキャリア教育の充実を図ることを期待する。
-------------------	---